

Captain English Course I,II Revised

指導資料・副教材を駆使した授業



村越亮治

私の勤務校では、ここ数年、生徒の家庭学習時間の少なさが問題になっています。「英語を話したりするのは好きだけど、家ではテスト前くらいしか英語の勉強はしない」「英語の予習はしないし、ノートも作らず、授業で先生が言ったことを教科書に書き込んで終わり」という生徒を多くお持ちの先生方もいらっしゃるのではないのでしょうか。ここでは、そのような生徒を前にした時の、英語の授業活動や家庭学習のさせ方について、*Captain English Course I Revised* の教科書と指導資料・副教材を材料にして考えてみたいと思います。

◆予習を前提としない授業

「語句を前もって調べてきなさい」と言っても生徒がなかなかやってこないなら、思い切ってその場で一緒にやっつけてしまいましょう。『指導用 CD-ROM』中の「フラッシュカード」を使って、新出語句・既習語句の意味を知っているかどうかを確認しながら発音練習をさせ、『学習ノート』の「単語・熟語・重要表現」の欄に書き込ませます。知っていたら思い切りほめてあげたり、グループを作って競わせたりしながら、導入の活動として授業を盛り上げることになればいいのです。最近では、生徒がなかなかノートをとらないことや、授業時間を効率的に活用するために、自作のハンドアウトに基づいた授業をされている先生方が多いと思います。しかしながら、ハンドアウト作りにはかなりの労力と時間が必要です。『学習ノート』があれば、前述の語句とあわせて、「Function」や、読解のための「Ques-

tions」の解答もその場でやって書いて残しておけます。早く課題が終わった生徒には「このクイズに Challenge!」に取り組みさせて時間調整ができます。これも、せっかくさせるのですから、次の授業の冒頭で確認・発音練習をして語彙定着のチャンスにしましょう。

また、スラッシュ入りの本文は、さまざまな音読活動に使えます。コーラス・リーディングやバズ・リーディングの他、シャドーイングやリード・アンド・ルックアップ、ペアワークの音読など、手を変え、品を変えながら飽きさせない音読活動をさせることが必要です。その際にも、スラッシュで区切られた意味のまとまりを意識させなければなりません。『学習ノート』を使わずに、やはり自作のハンドアウトで、という場合には、『指導用 CD-ROM』中のさまざまな電子データが利用できます。いずれの場合にせよ、予習をしてこない状況を嘆くのではなく、逆に「初見の新鮮さ」を活かした授業活動を考えたいものです。

◆言語知識から言語使用へ

テキストに出てくる文法事項を学習したら、『学習ノート』の「文法チェック」などを使った定着のための練習が不可欠です。私の勤務校でも、生徒たちにライティングやスピーキングの活動をさせると、中学校1年生レベルの基本的な文法事項も使えるようになっていないことがよくあります。習ったことは、練習問題でくり返し練習させるとともに、会話練習やタスク活動などの中で使わせながら、さらにしっかり定着させた

いものです。『言語活動集』には、各レッスンに出てくる文法事項に焦点を当てた「基礎編」「発展編」のタスク活動が収録されています。冊子のものでそのままコピーしてワークシートにできますが、時間の関係でもう少し軽めにしたい、もう少し簡単な語句で活動させたい、などカスタマイズにしたい場合は、『指導用 CD-ROM』の中の電子データ版が利用できるでしょう。この『言語活動集』の活動は、現実の言語使用場面にできるだけ則したものになっています。これらの言語活動は、授業時間が余ったときのお楽しみ企画として実施してもよいと思いますが、言語知識習得のための活動として授業の流れの中に位置づけられれば、よりメリハリのある展開になるのではないかと思います。

◆語句・文法事項の復習は授業で

生徒がみな日々の家庭学習で語句や文法事項をしっかり復習してくれる、とは限りません。テスト1週間前以外は（へたをするとさらに直前まで？）ほぼ毎日部活、などという生活を送っている生徒も少なくないでしょう。そのような状況の中で、課題を配って、「家でやってきなさい」がどれくらい報われるかは、はなはだ疑問です。そこで、語句や文法事項については習ったらすぐ授業の中で復習、というのはどうでしょう。授業の終わり、または次の授業の冒頭で、教科書その他何も見ないで『単語・文法練習シート』をさせてみれば、どの語句が記憶にとどまっているのか、理解できていない文法事項はどれか、を生徒自身にモニターさせながら、復習させることができます。『単語・文法練習シート』はレッスンごとに「基礎」「発展」とまとまっているので、パートごとなど、もう少し細かく分けて実施したい場合やかけられる時間が短い場合には、『指導用 CD-ROM』の電子データを利用するとよいでしょう。

◆家庭学習課題の明確化

さて、冒頭で述べた、「家庭学習時間の少なさ」を解決するにはどうしたらよいのでしょうか。明らかな答えがわかればとっくにやっているのですが、基本的に生徒は、「お徳感」がなければ、家庭学習や宿題はやらないと思います。「提出・未提出は成績に入るぞ」などと脅したところでうまく行かない場合もあります。出すだけでいいなら、誰かのを写して提出する生徒も出てくるでしょう。そこで、『評価問題集』を家庭学習課題にし、必ずそこから同一問題、類似問題を定期テストに出題するようにすれば、やる気になるかもしれません。これも、問題を加工する場合は、CD-ROMの電子データが利用できます。

◆おわりに——「教科書で教える」再考

「教科書を教える」のではなく「教科書で教える」——教師なら何度も耳にしてきたフレーズだと思います。あらためて、「教科書で教える」とはどういうことでしょうか。私自身の授業では、教科書本文のトピックについて、まず生徒の身近なところから話題を振りながら、関連語句や言語形式をインプットします。つまりスキーマを活性化させてから教科書に臨みます。その渡りのしかけを作るのが大変ですが、楽しみでもあります。読後には読んだことを踏まえて、自分自身のことについて、短くてもよいので、書かせたり話させたりします。つまり「自分たちの世界」→「教科書の世界」→「自分たちの世界」という流れです。「教科書で教える」とは「教科書を材料にして、自分自身で考えさせたり表現させたりすること、またそのために必要な言語知識を習得させる」ことではないでしょうか。そのような授業を展開するためには、指導資料・副教材などを活用しながら、より立体的な授業プランを持ち、より着実な学びを促す工夫をしたいものです。

*この実践例は前任校神奈川県立大和西高等学校でのものです。

（むらこし りょうじ・神奈川県立外語短期大学講師）